

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

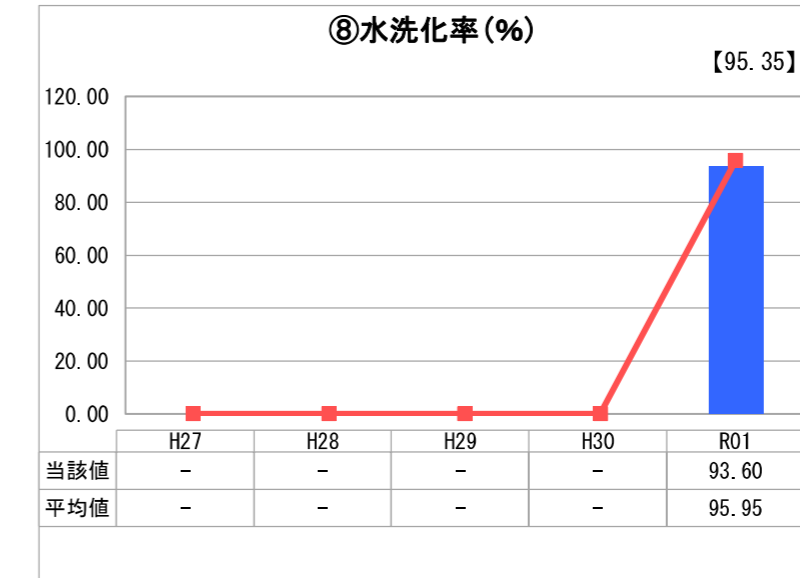
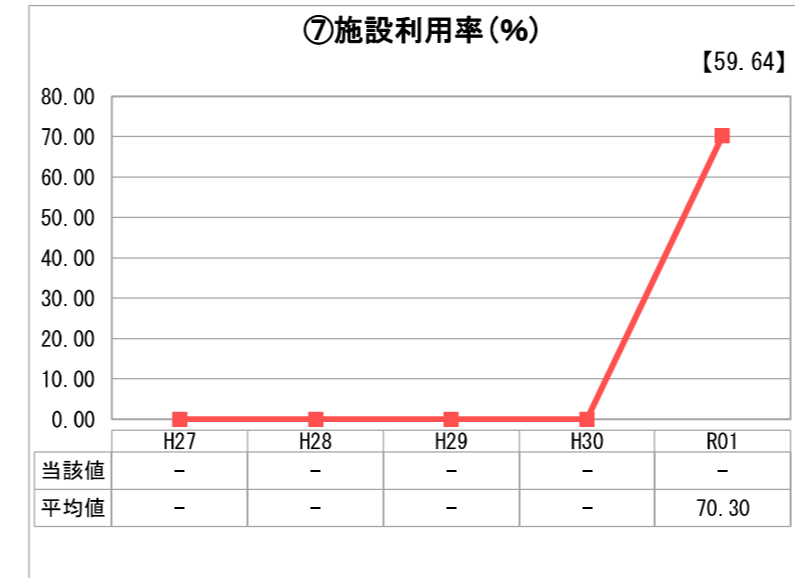
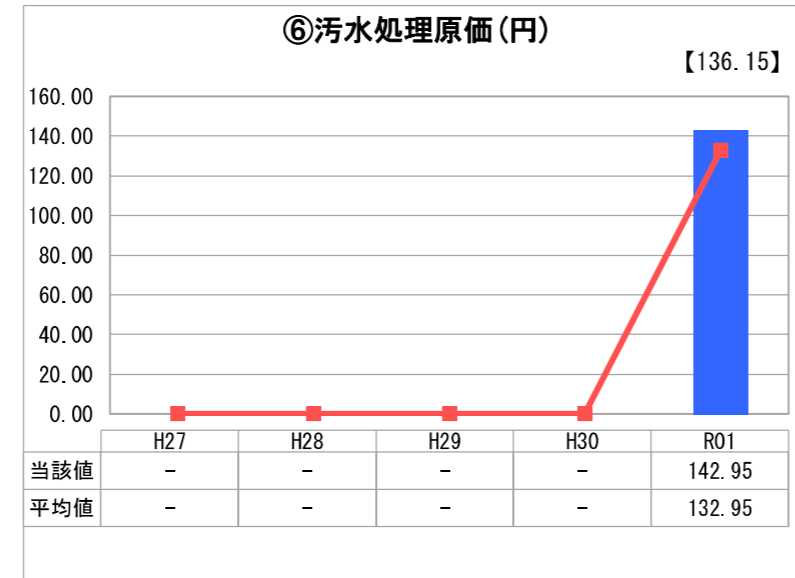
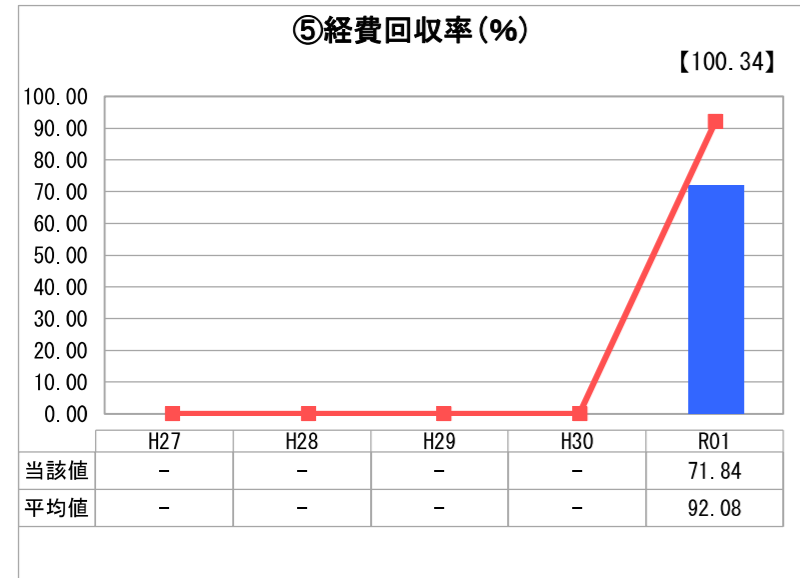
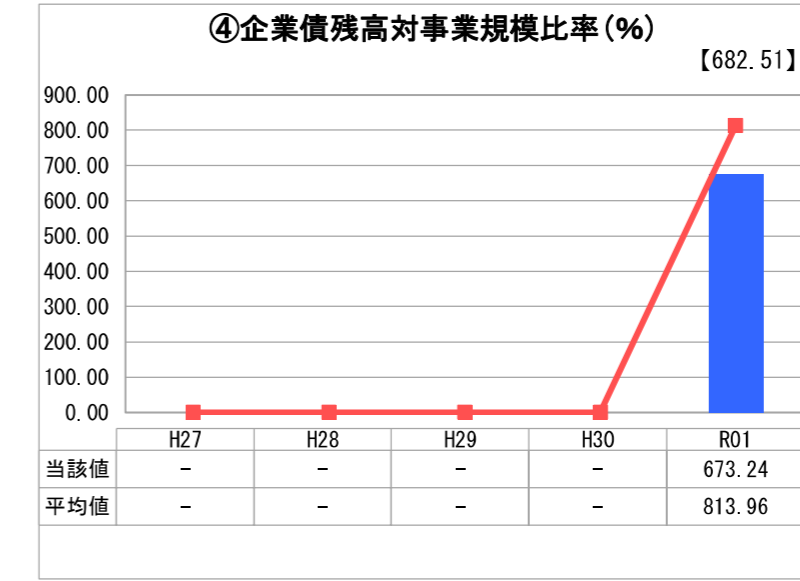
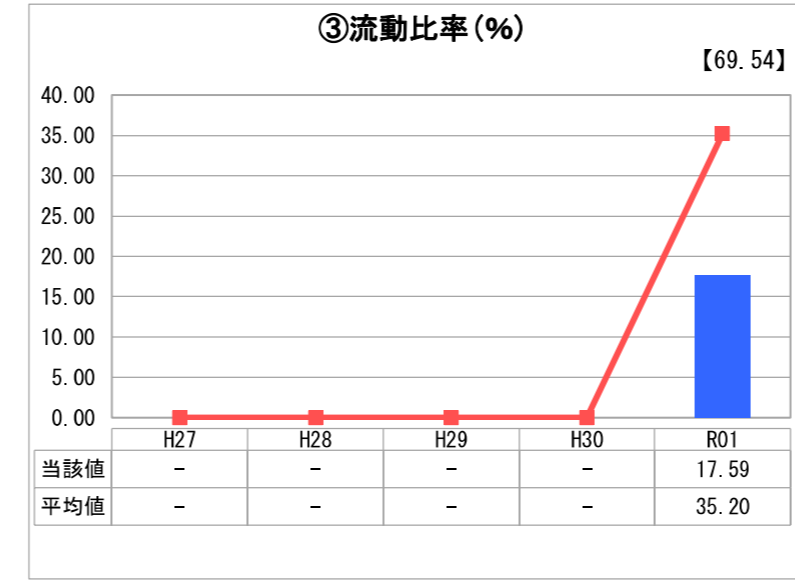
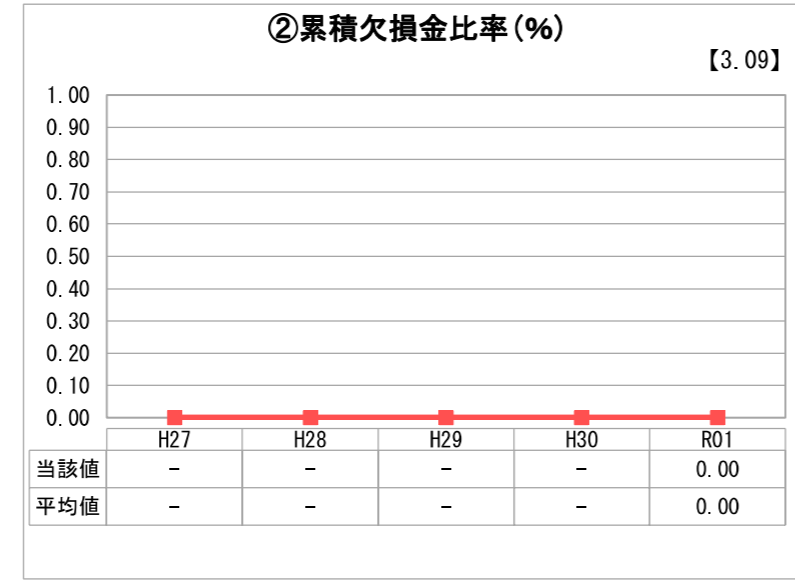
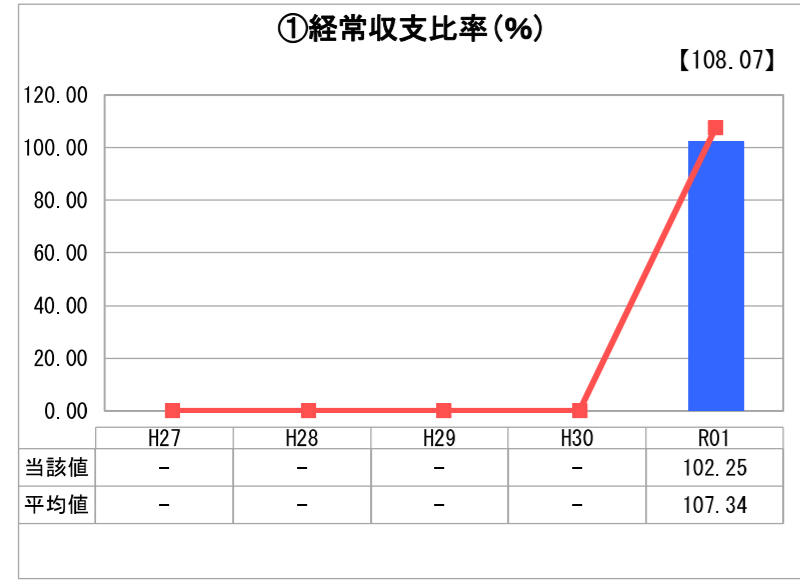
埼玉県 桶川市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bb1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	74.94	81.03	72.05	1,980

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
75,359	25.35	2,972.74
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
61,004	7.94	7,683.12

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率、⑤経費回収率  
 経常収支比率は100%を超えているが、経費回収率は71.84%という低い水準となっており、本来使用料で回収すべき経費を賄えておらず、一般会計繰入金に依存している状況である。

③流動比率  
 100%以上であることが望ましいが、全国平均より低い水準である類似団体の平均値をも下回る17.59%に留まっており、支払うべき債務に対する現金資産が著しく少ない。常時手持ちの現金が少なく、企業債の償還時には一般会計からその都度一時借入をしている状態である。

④企業債残高対事業規模比率  
 平均値を下回る水準の673.24%となっているが、今後は老朽管渠の更新が予定されるため、ストックマネジメント計画を策定し効果的な投資を行っていく必要がある。

⑥汚水処理原価  
 汚水処理原価は平均値を上回っている。管渠の点検や改修等で不明水対策を行うことで有収率を改善し、経費削減を図る必要がある。

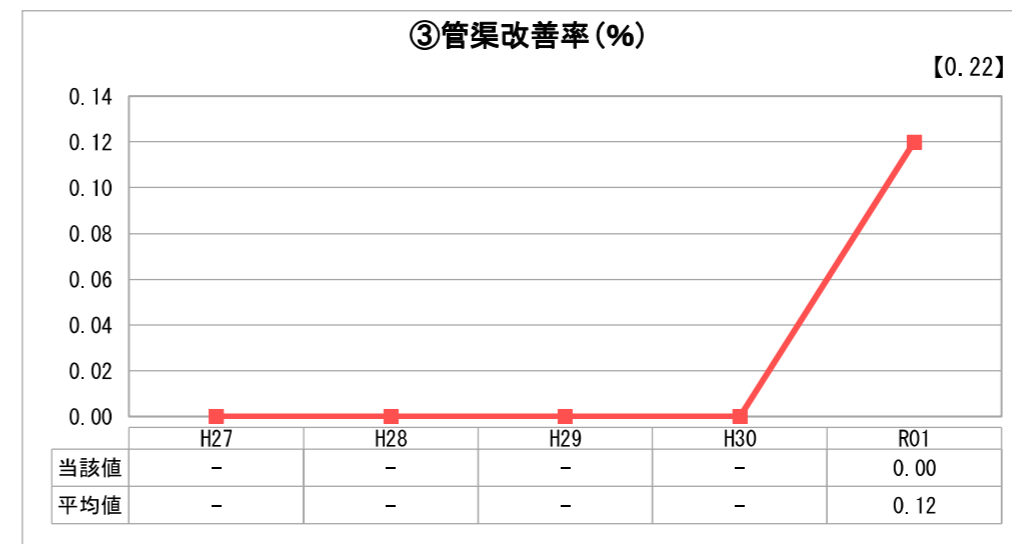
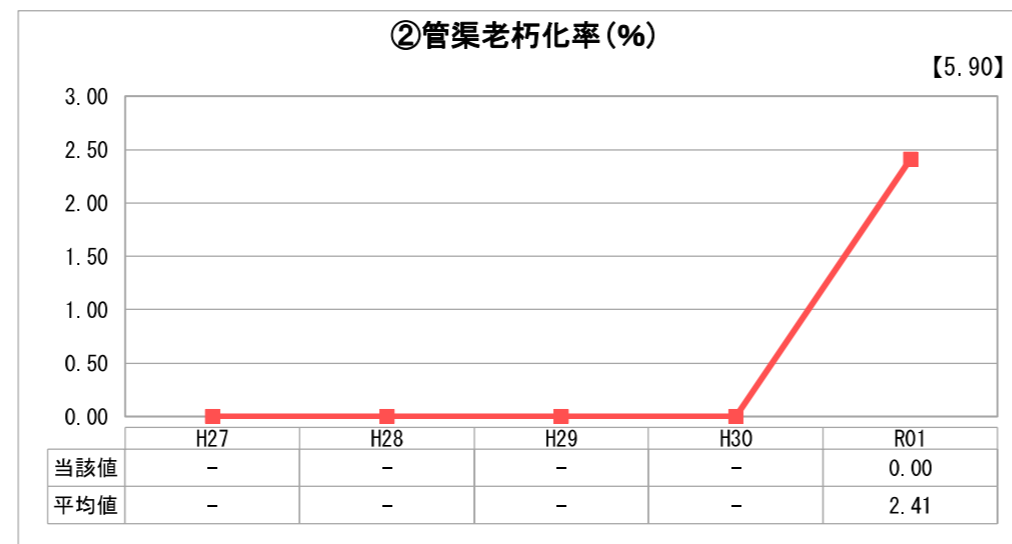
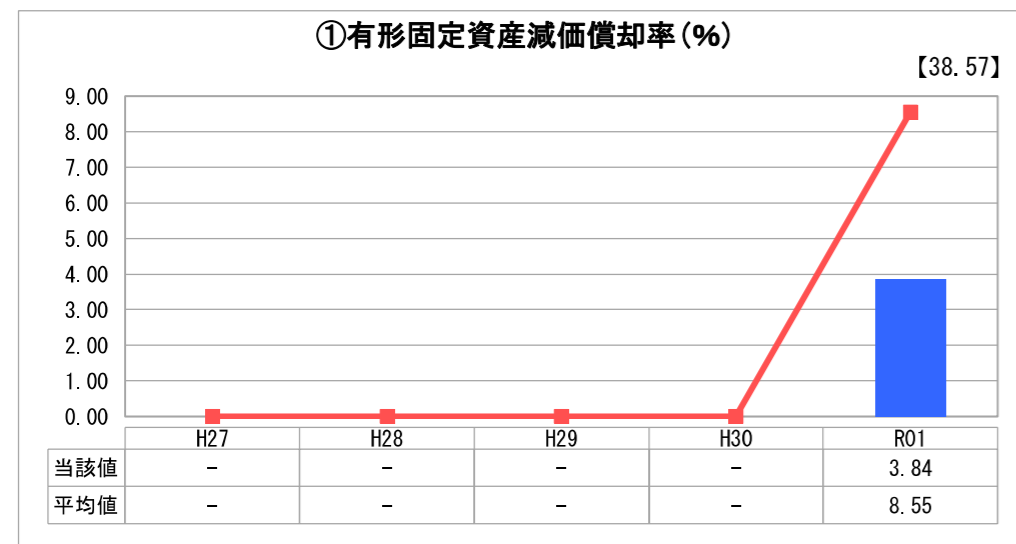
⑧水洗化率  
 平均値を下回っている。接続率向上のためのアナウンスを実施し、水洗化率の向上に繋げていく必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率  
 全国平均、類似団体の平均値を下回っているが、平成31年度に法適用をした際に資産を新たに取得したとみなして帳簿価額を決定しているためであり、実際は早い時期に整備した管渠の老朽化が進行しているのが実情である。

②管渠老朽化率、③管渠改善率  
 いずれも0%となっており、現状で法定耐用年数を経過した管渠はない。しかしながら令和7年度以降には耐用年数を超える管渠が出るため、ストックマネジメント計画を策定し、計画的な修繕や改修に備える必要がある。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

単年度の収支は黒字となっており、累積欠損金も発生していないが、汚水処理費が使用料収入で賄えておらず、一般会計繰入金に依存している状況である。

老朽化の状況は、現在耐用年数を超えている管渠はないが、令和7年度から耐用年数を超える管渠が年々増加していく。

今後、人口減少による使用料収入の減収、管渠の老朽化による更新費用の増加など、経営がより厳しい状況となることが予想されるため、現在策定中の経営戦略や、今後策定する予定のストックマネジメント計画に基づき、経営健全化を図る必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。